

平成25年全国町村長大会 特別決議案 提案理由説明

私からは、特別決議についての提案理由を説明申し上げます。

私どもは、これまで平成20年と24年の全国町村長大会において、道州制の導入に反対する特別決議を採択し、関係方面へ要請活動を行ってまいりました。

これらの特別決議では、道州制への漠然としたイメージや期待感のみ先行し、国民の感覚から遊離していること、道州制の導入により市町村合併がさらに強制されれば、農山漁村の住民自治は衰退の一途を辿り、ひいては国の崩壊につながっていくことなどの問題点を指摘したところです。

しかしながら、我々の懸念や主張にもかかわらず、与党は道州制の導入を行おうとしております。道州制がなぜ必要かの議論を先ず行うべきです。

道州制は、地方分権の名を借りた新たな集権体制を生み出すでしょうし、税源が豊かで社会基盤が整っている大都市圏への集中を招き、地域間格差は一層拡大するでしょう。さらに道州における中心部と周縁部の格差も広がり、道州と住民の距離が遠くなり、住民自治も埋没する懸念もあります。

それぞれの地域には歴史、文化、慣習、伝統といった地域の特色があります。国土の多様な姿に見合った多彩な町村のありようそのものが日本の活力であります。

このようなことから、本大会において改めて、「道州制の導入に反対する特別決議」を行い、政府・国会など関係要路に強力に訴えようとするものであります。

町村長各位の満場のご賛同を賜りますようお願い申しあげまして、提案理由の説明を終わります。

平成25年11月20日
全国町村会副会長
愛媛県松前町長
白石勝也